

国際エボラ復興会議 中根政務官ステートメント

議長,
ご列席の皆様,

まず始めに、エボラ出血熱の流行により尊い命を落とされた方々に対し、改めて深い哀悼の意を示すとともに、今回、このような会議を主催された潘基文国連事務総長のイニシアティブに敬意を表します。

5月9日、WHOはリベリアについて終息宣言を発出しましたが、その後、新たな患者が発生したと聞いております。この難局をリベリア国民がサーリーフ大統領のリーダーシップの下、一致団結して克服されることを期待します。

ギニア及びシエラレオネにおいても、新規感染者は大きく減少しております。その一方で、引き続き「ゼロ・ケース」に向けて関係者が最大限の努力をしていく必要性があり、我が国としてもこれを積極的に支援していく所存です。

これまで我が国は資金面に限らず、専門家派遣や物資供与といった支援も実施してきました。人的な面ではWHOのミッションに延べ20名の専門家を派遣してきたほか、国連エボラ緊急対応ミッション（UNMEER）へもシニア・アドバイザーを派遣しました。

物資供与に関しては、個人防護具（PPE）を含む医療資機材を中心に支援してきました。さらに、日本企業は日本の技術を活かし治療薬や迅速検査キット、サーモグラフィーカメラを開発しており、日本政府もこれを支援することで、官民挙げてエボラ危機の克服を後押ししてきました。

エボラ出血熱流行3か国の復興（build back better）に向けた国際社会の取組の加速化が求められる今、我が国は、流行3か国が新たに策定した復興計画に沿って、既に関連の国際機関に拠出したも

のも含め本年中に8千万ドル規模の支援を実施していくこととしました。

具体的には、医療従事者の能力強化や保健施設の整備を始めとした保健分野への支援や、インフラ整備、農業生産性向上、食糧安全保障強化等、社会的・経済的復興に資する支援を迅速に進めていきます。

我が国は、20年にわたりアフリカ開発会議（TICAD）プロセスを通じ、アフリカのオーナーシップと国際社会のパートナーシップを結びつけてきました。

2013年のTICADVでは向こう5年間で5億ドルの保健分野への支援と12万人の人材育成を約束し、これまでユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の考えに基づき着実にこれら支援を実施してきました。

今後2017年までの残りの約束期間においては、特に今回エボラ危機の影響を受けた西アフリカ地域を対象として、保健システムの強化・再構築に向けた支援に重点的にリソースを配分していく予定です。

我が国は、これらの支援を迅速に進めていくとともに、次回TICADにおいても引き続き保健協力を重点分野と捉え、今後も、人、資金、知見、経験を組み合わせて貢献していきます。

（了）